

中堅教員と学卒院生による授業リフレクションを通じた 授業構成の変容に関する事例的研究

教育実践高度化専攻
教育実践リーダーコース
藤田 純祈

I. 問題の所在

中央教育審議会(2015)は、「教員が高度専門職業人として認識されるために、学び続ける教員像の確立が強く求められる」と述べている¹⁾。

教員は、官制研修といわれる校外での研修や学校内での校内研修など様々な研修の機会を活用することで学び続けている。特に、授業改善に向けた教科の研修では、実際の授業を教員同士で見合いながら検討する授業研究が行われている。

授業研究において稲垣ら(1996)は、先輩教師による一方的な「教え - 教えられる」関係によるボス支配が検討会を不活発にする問題点を指摘している²⁾。

この問題を解消する手立てとして、先輩教員と若手教員の協働的な研修に関する研究が近年盛んに行われている。相澤ら(2012)は、学卒院生と現職院生との「学び - 学ぶ」関係による協働を通して、学卒院生の授業力向上、現職教員の指導意識の変容を明らかにした³⁾。また大島ら(2016)は、タブレット型端末を活用した大学生と現職院生による授業観察・検討会を通して大学生の授業観察力が向上したことを明らかにした⁴⁾。

しかし、いずれの研究も先輩教員の変容については指導の仕方であり、先輩教員の授業の変容については明らかとなっていない。

II. 研究の目的

本研究の目的は、中堅教員と学卒院生による授業リフレクションの有用性を検証することである。有用性を検証するため、以下2つの分析を行う。分析1. 中堅教員の授業構成の変容(授業構成については、学習者主体の時間に着目する)を明らかにする。分析2. 授業リフレクション時の中堅教員の発話の変化を明らかにする。

III. 研究の方法

1. 調査対象

高等学校中堅教員 1名
(教職経験年数 12年, 教務主任)
学卒院生 4名

2. 調査期間

平成 28 年 9 月～11 月

3. 授業の概要

①学年・教科

高校 2 年生・日本史 B

②単元

古代国家の推移と社会の変化 (4 時間)

中世国家の形成 (4 時間)

4. 授業リフレクションの概要

発表順番を決めず、司会を立てずに自由に発言できるようにした。実施されたのは、9月12日、9月26日、10月3日、10月17日、10月31日、11月14日、11月28日の計6日である。

5. 分析方法

分析1

学習者主体時間と教師主導時間を秒単位で計測する。学習者主体時間と教師主導時間の定義については、小林ら(2007)の子ども活動時間(本研究では、学習者主体時間と称する)と教師主導時間の定義を参考に作成した⁵⁾。

分析2

授業リフレクション時の中堅教員の不安や、悩みに関する発話回数を算出し、初回と最終回の間で、1×2の直接確率計算を行い、出現確率を求めた。

また、授業リフレクションに対して中堅教員がどのように感じているのかプロトコルから質的に分析する。

IV. 結果と考察

[分析1]

図1から中堅教員の授業は、学習者主体の授業構造に変化した。

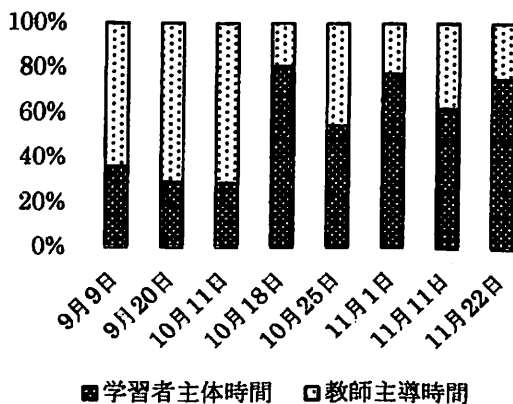


図1 学習者主体時間と教師主導時間の変化

[分析2]

表1は、初回の授業リフレクションと最終回の授業リフレクションにおける不安や悩みに関する発話回数を表している。

表1 不安や悩みに関する発話数の比較

9月12日	11月28日	有意差検定
24回	5回	p=0.0005 **

** p<.01

このことから、中堅教員の不安や悩みは有意に減ったことが明らかになった。

さらに、表2のように中堅教員は、教職経験に関係なく授業リフレクションに意味があったと感じており、協働的に取り組むことの可能性が示唆された。

表2 授業リフレクションに関する肯定的意見

T:別にそんな、経験があるないっていうことで、そこにあの、意味があるなしっていうことは結びつかないと思うので。

V. 引用・参考文献

- 1) 中央教育審議会：「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～(答申)」, 2015.
- 2) 稲垣忠彦, 佐藤学：「授業研究入門」, pp. 136-139, 岩波書店, 1996.
- 3) 相澤文哉, 田中博徳, 吉井理人, 水落芳明：「教職経験のない学卒院生と現職院生との協働による授業実践の効果の検証」, 臨床教科教育学会誌, Vol. 12, No. 1, pp. 1-7, 2012.
- 4) 大島崇行, 石井慎太郎, 水落芳明：「大学生の授業観察力の向上に関する事例的研究 - タブレット型端末を活用した現職大学院生との観察比較検討会を通して - 」, 科学教育研究, Vol. 40, No. 2, pp. 209-221, 2016.
- 5) 小林千鶴, 西川純：「子ども同士の『学び合い』を促す教師に関する研究」, 臨床教科教育学会誌, Vol. 7, No. 1, pp. 17-54, 2007.